

記者発表資料

のびる・つながる、みえの道！

～物流・観光がスムーズ・快適に～

「新名神・東環開通効果検討会議」において新名神高速道路・東海環状自動車道などの開通効果をとりとめました。

新名神高速道路(新四日市 JCT～亀山西 JCT)、東海環状自動車道(大安 IC～東員 IC)が平成 31 年 3 月 17 日(日)に開通し、1 年が経過しました。1 年間の交通状況および、開通効果をとりとめましたので、お知らせいたします。

<開通後の交通状況>

- ・交通の分散により**渋滞減少！** (P3-4)
- ・**事故の減少**、リダンダンシーの確保 (P5)

<企業活動を支援・観光活性化>

- ・企業の**経済活動を支援！** (P6)
- ・渋滞緩和で**観光活性化を支援！** (P7-8)
- ・高速バスの**利便性向上に寄与** (P9)

新名神・東環開通効果検討会議では、新名神高速道路・東海環状自動車道などの開通効果について調査・検討をおこなっています。

同会議のホームページでは交通状況や開通効果などを適宜報告しています。

(<https://www.cbr.mlit.go.jp/hokusei/tsunagaruyan/index.html>)



記者発表クラブ

中部地方整備局記者クラブ、中部経済産業記者会、愛知県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ、四日市市政記者クラブ、桑名市政記者クラブ、鈴鹿市政記者クラブ、亀山市政記者室

問い合わせ先

【新名神・東環開通効果検討会議に関する全般的なお問い合わせについて】

国土交通省 中部地方整備局 北勢国道事務所

TEL : 059-363-5511 (代表)

副所長 よこい 横井 かねゆき 兼行 計画課長 かじはら 梶原 ゆうじ 裕二

【新名神・東海環状道の交通状況について】

中日本高速道路(株)名古屋支社 広報・CS課

TEL : 052-222-1183 (直通)

開通から1年!

のびる・つながる、みえの道!

E1A

新名神高速道路

新四日市JCT ◀ 亀山西JCT

C3

東海環状自動車道

大安IC ◀ 東員IC

新名神高速道路

東海環状自動車道

四日市湯の山道路

新名神・東環開通効果検討会議

のびる・つながる、みえの道！

～ 物流・観光がスムーズ・快適に ～

ものづくり中部を支える道路ネットワークの拡充



開通路線の概要

路線名	起点	終点	延長	車線数	事業主体
E1A 新名神高速道路	三重県四日市市(新四日市JCT)	三重県亀山市(亀山西JCT)	22.9 km	4車線	中日本高速道路(株)
C3 一般国道475号東海環状自動車道	三重県いなべ市(大安IC)	三重県員弁郡東員町(東員IC)	6.4 km	2車線	国土交通省・中日本高速道路(株)
477 一般国道477号四日市湯の山道路	三重県四日市市	三重県三重郡菟野町	9.0 km	2車線	三重県

主な開通効果

企業の経済活動を支援

新規立地企業
19社
新規立地契約企業
7社

凡例
★ 新規立地企業
☆ 新規立地契約企業



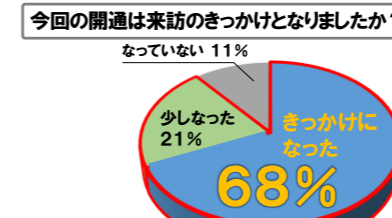
亀山・関テクノヒルズ



出典: 市町アンケート(2017年以降に新規立地した企業)
※対象市町: 四日市市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、東員町、菟野町

沿線地域の観光活性化

三重県観光
入込客数
約**83万人**
増加



約9割が開通を来訪のきっかけと回答

中部圏屈指の複合型観光施設



にぎわいの森(新設観光拠点)

2019年5月18日(土)オープン



ダブルネットワーク形成により東名阪道の渋滞が大幅減

新名神開通前

2018. 12. 21 (金) 撮影

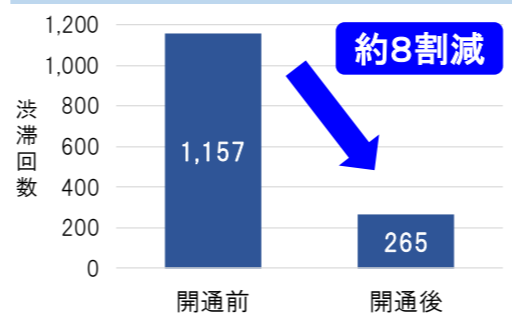


新名神開通後

2020. 2. 21 (金) 撮影



東名阪道(四日市JCT～亀山JCT)の渋滞回数



出典: 中日本高速道路(株) 資料
開通前: 2018年3月19日(月)～2019年2月1日(金)
開通後: 2019年3月18日(月)～2020年1月31日(金)
※交通集中による渋滞回数(事故による渋滞は除く)

大安IC

名古屋方面の交通量
にぎわいの森オープン前後
約**460台/日**増加

にぎわいの森
最寄りの大安IC



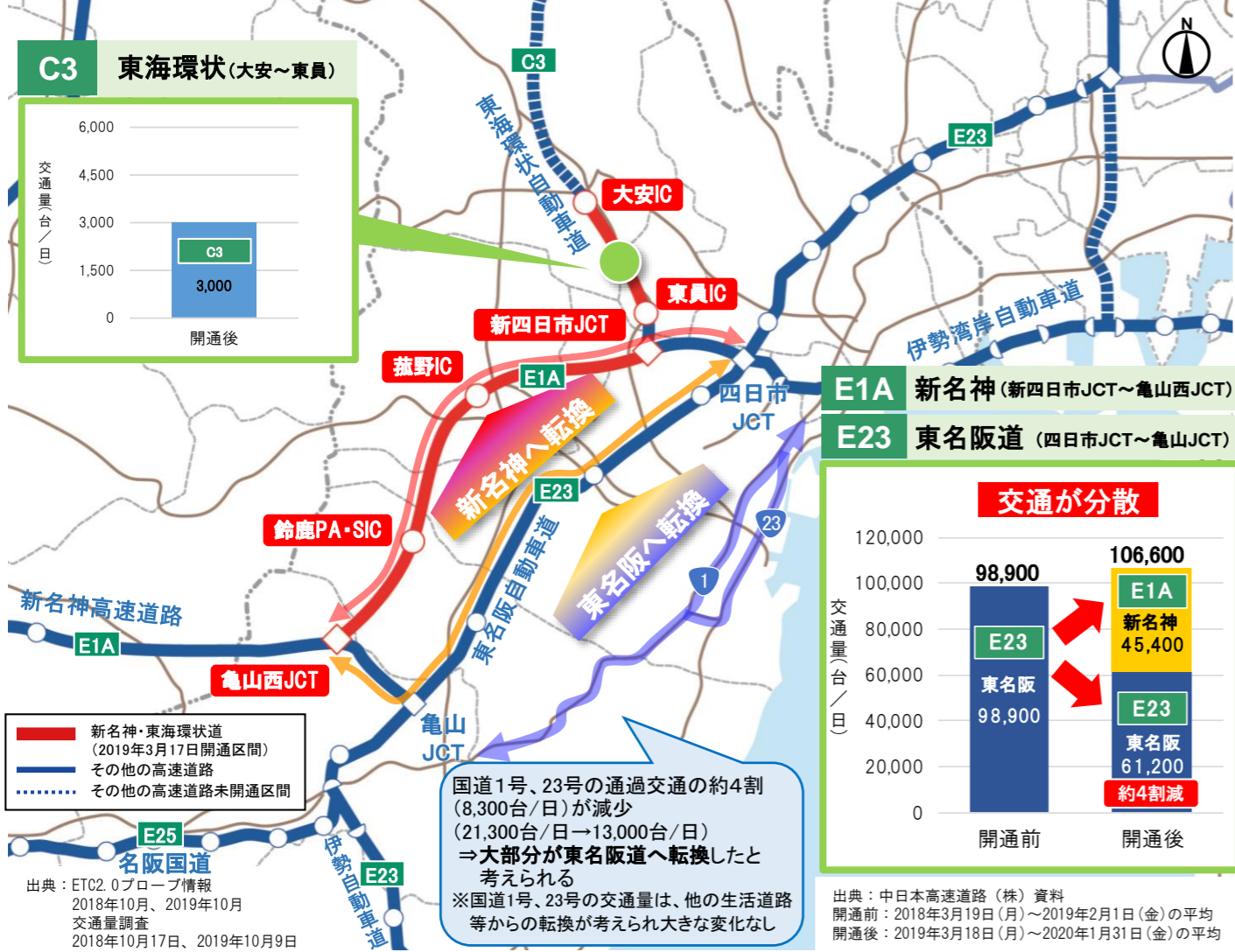
出典: 中日本高速道路(株) 資料
対象期間 開通前 2018年3月～2018年4月 土日、開通後 2019年6月～2019年8月 土日
対象車種 軽自動車等・普通車

開通後の交通状況

交通の分散により渋滞減少！

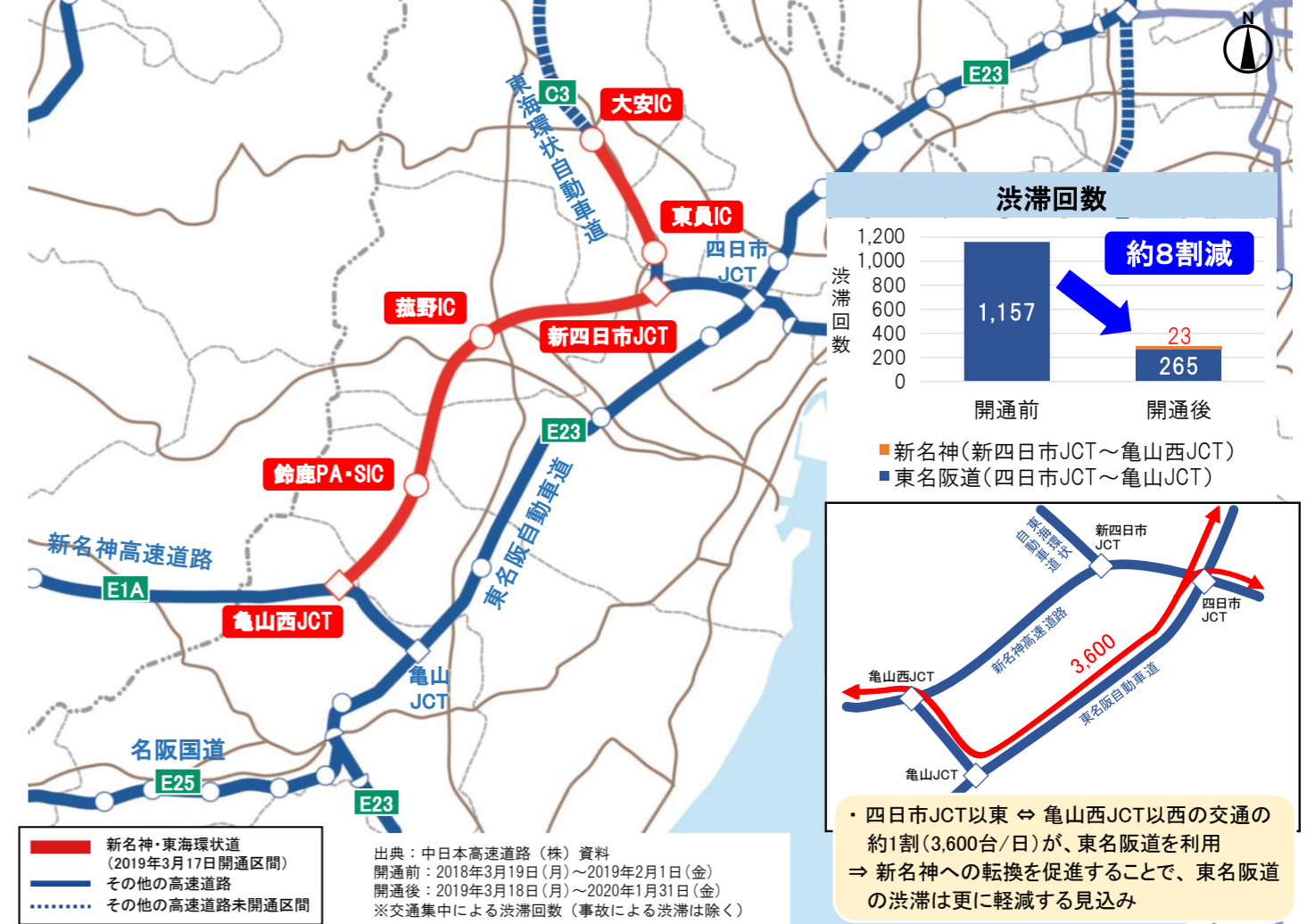
ネットワークの充実と交通分散

- 東名阪道と新名神に交通が分散し、東名阪道の交通量が約4割減少。
- 国道1号、23号の通過交通の約4割が渋滞の減少した東名阪道に転換。



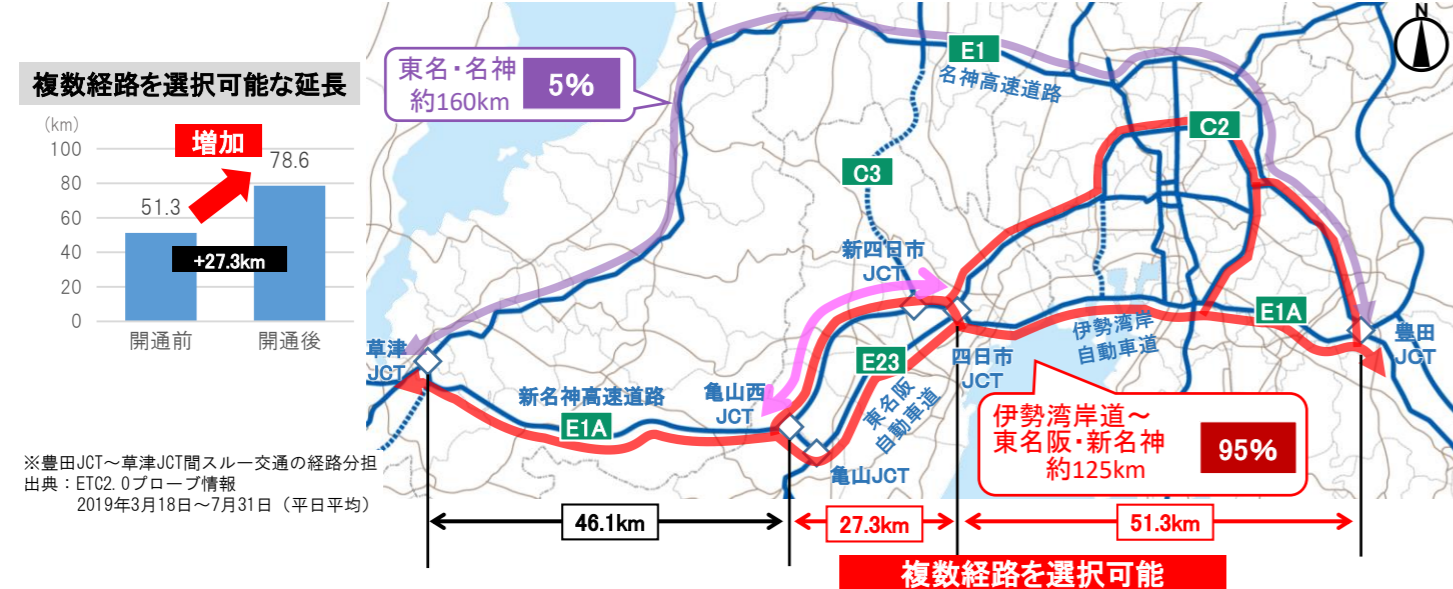
東名阪道の渋滞減少

- 新名神への交通分散により東名阪道の渋滞が約8割減少。
- 更なる新名神への転換により、東名阪に残る渋滞は軽減見込み。(四日市JCT以東⇄亀山西JCT以西の移動は、新名神ルートの利用を推奨。)



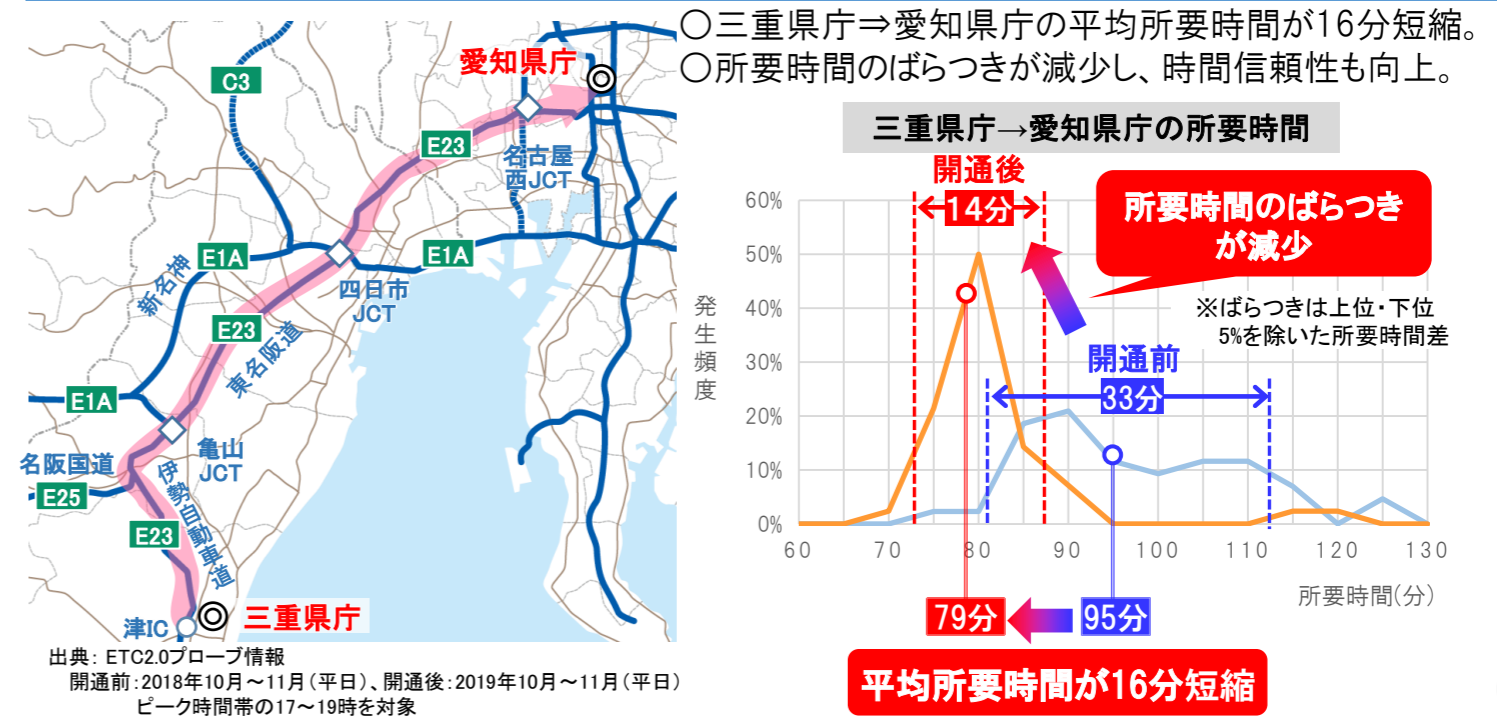
ダブルネットワーク区間が増加

- 豊田JCT~草津JCT間の交通の95%が伊勢湾岸道~東名阪道・新名神を経由。
- 豊田JCT~亀山西JCT間は、新名神(新四日市JCT~亀山西JCT)の開通により、複数経路を選択可能な延長が増加。



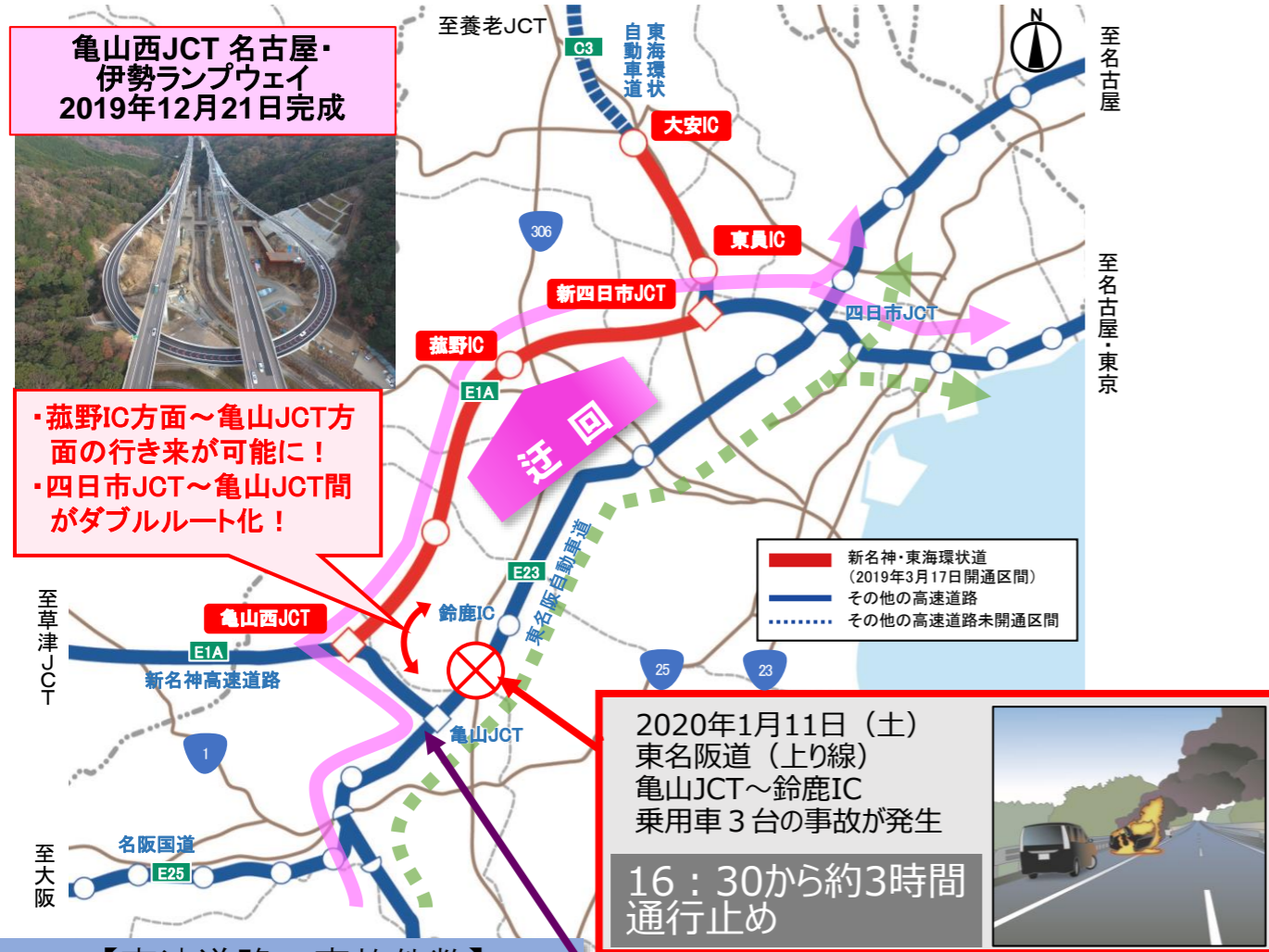
時間短縮と時間信頼性向上

- 三重県庁⇄愛知県庁の平均所要時間が16分短縮。
- 所要時間のばらつきが減少し、時間信頼性も向上。

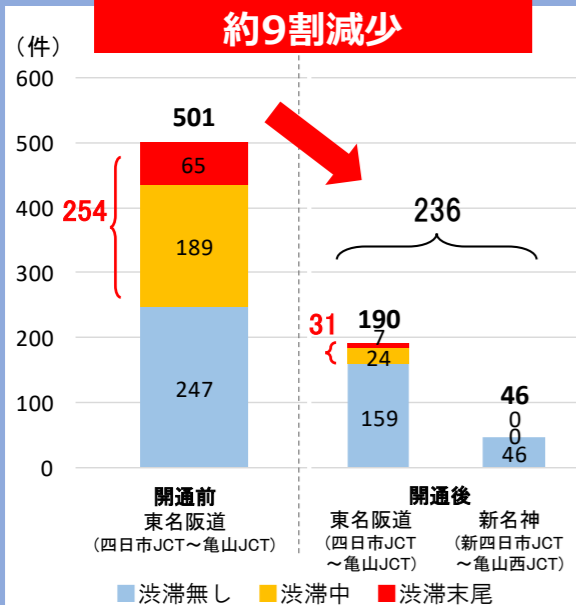


高速道路の安全・安心

- 新名神と東名阪道の事故件数は約5割減少、特に渋滞に起因する交通事故は約9割減少。
- 東名阪道が通行止めの場合、新名神が迂回路として機能。



【高速道路の事故件数】
交通事故は約5割減少
特に渋滞に起因する事故は約9割減少



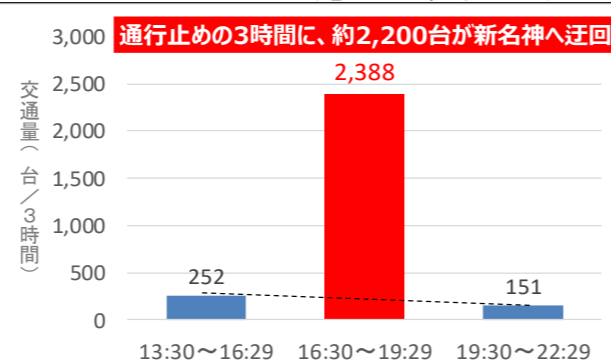
出典：中日本高速道路(株)資料
開通前 2018年3月19日(月)～2019年2月1日(金)
開通後 2019年3月18日(月)～2020年1月31日(金)

亀山JCT付近での迂回案内

亀山JCT手前の情報板に新名神で名古屋方面に通行可能である事を案内



名古屋・伊勢ランプウェイの交通量 (亀山JCT⇄菟野IC方向)



企業の立地促進

- 開通路線の沿線市町で、製造業を中心に多くの企業立地が促進。
- 新規立地企業および新規立地契約企業位置図

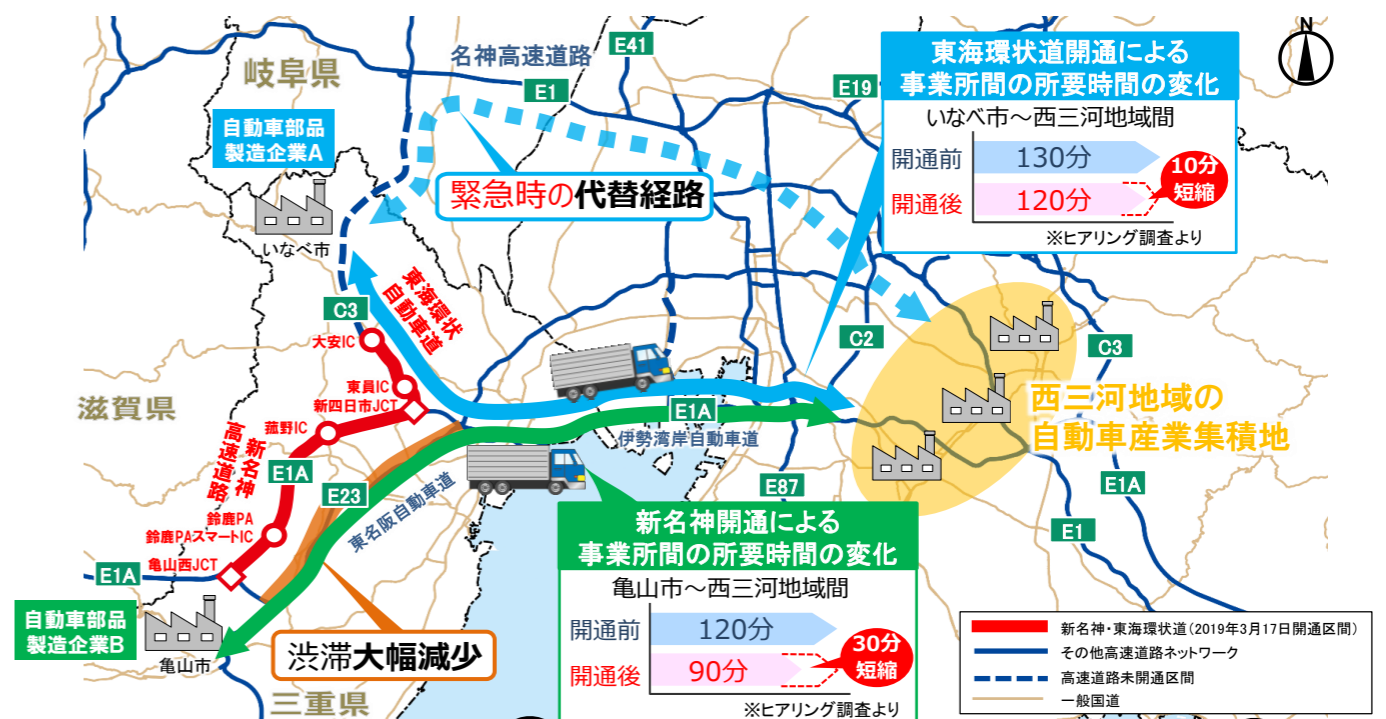


亀山・関テクノヒルズ 新規立地契約企業の声

○工場の新設にあたり、交通アクセスの良い場所を探していました。
○東名阪道がものすごく渋滞していましたが、新名神の開通後は、予定通り運べる事が分かり、亀山・関テクノヒルズに立地を決めました。

物流の輸送効率化

- 東名阪道の渋滞緩和や東海環状道の開通により自動車部品の輸送時間が短縮。



自動車部品製造企業Bの声

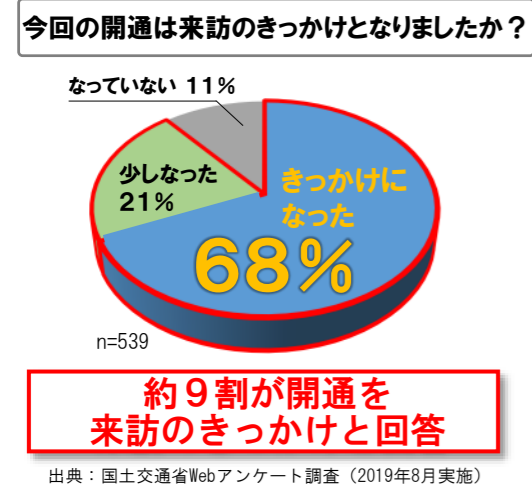
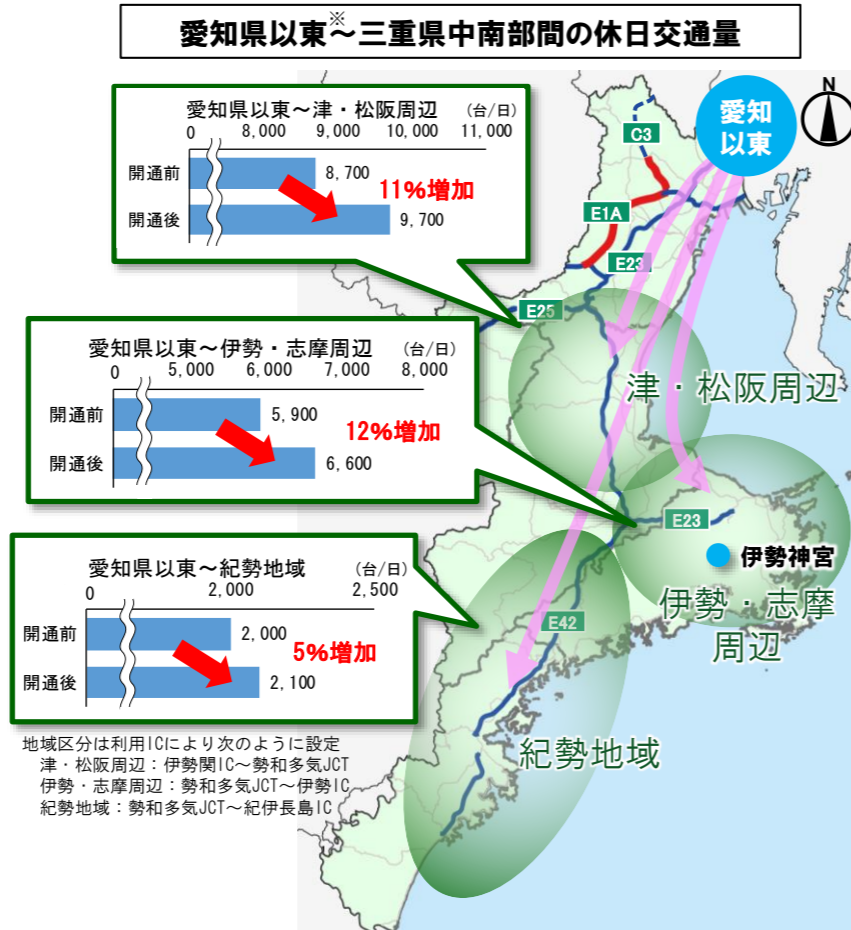
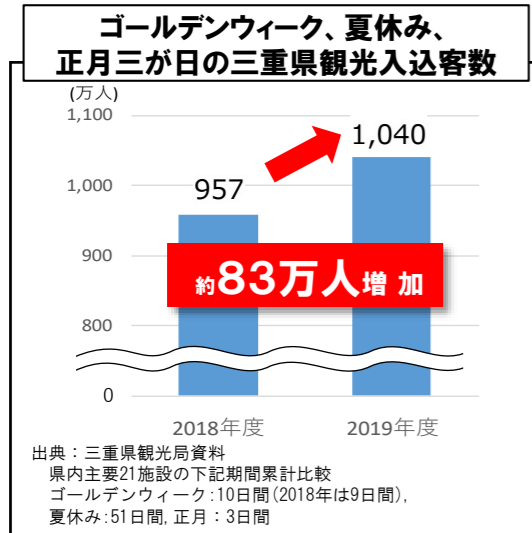
○新名神の開通に伴い、東名阪道の渋滞が大幅に減少し、輸送時間が30分程度短縮したため、計画通り運行が出来るようになりました。
○ドライバーは十分な休憩時間が取れることで、負荷が軽減し、事故も減った印象です。

自動車部品製造企業Aの声

○大安ICの開通に伴い、いなべ工場から西三河の取引先への輸送時間が10分程度短縮し、遅れる事もなくなりました。
○東海環状道が名神までつながれば、ダブルネットワークで結ばれ、緊急時の代替経路が確保されると期待しています。

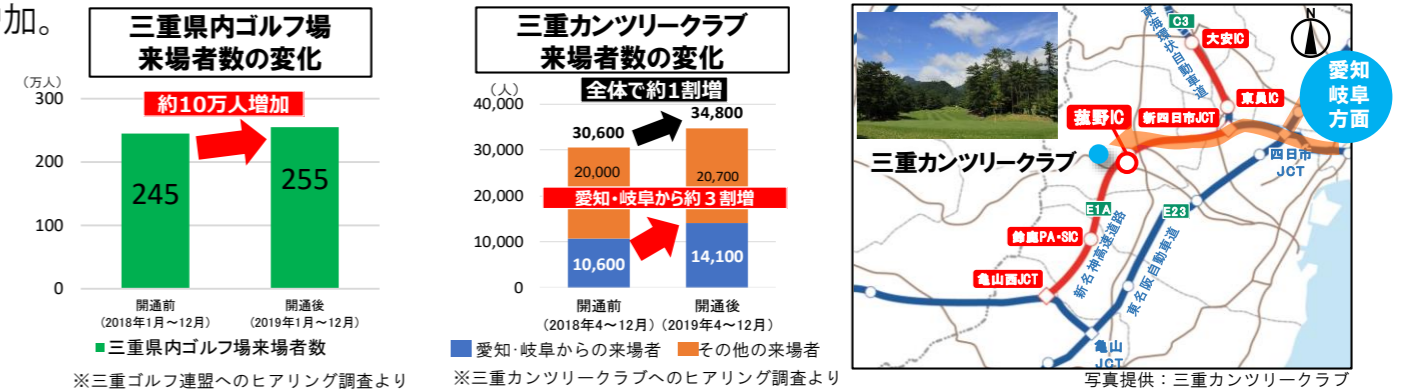
観光活性化<三重県>

- 三重県観光入込客数は開通前の2018年度に比べ2019年度は約83万人増加。
- Webアンケートにおいて、今回の開通が三重県の観光地を訪問するきっかけになったとの回答が、全体の約9割。
- 新名神開通後の休日において、愛知県以东から三重県中南部への交通量が最大11%増加。



観光活性化<ゴルフ場>

- 三重県内のゴルフ場は来場者数が約10万人増加。
- 菟野ICに近接する三重カンツリークラブでは全体で約1割、特に愛知・岐阜からの来場者が約3割増加。



観光活性化<いなべ市>

- いなべ市の観光施設「にぎわいの森」では、オープン以降約35万人が来場。
- 大安ICの名古屋方面からの利用台数は「にぎわいの森」のオープン後、約460台/日増加。

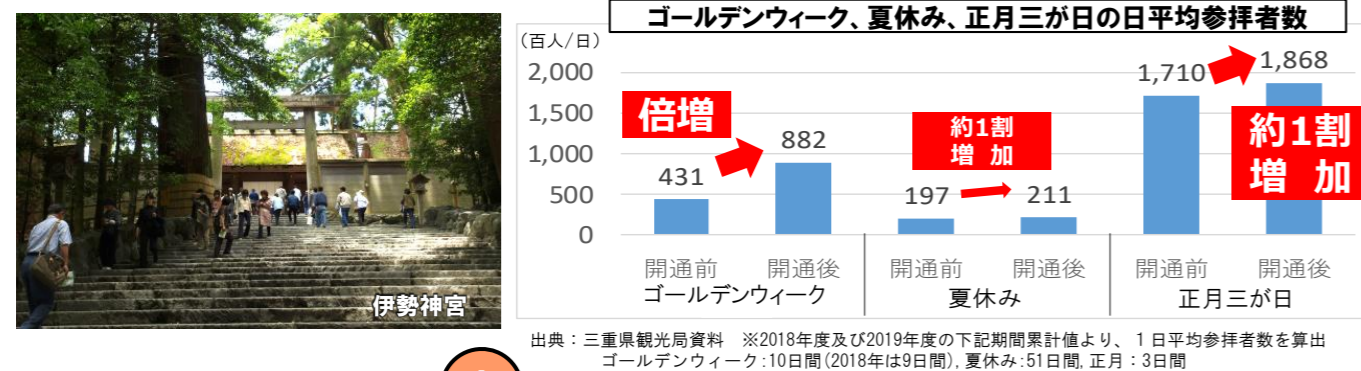


いなべ市役所 観光担当者の声

- 東海環状道の開通に合わせて観光拠点として整備した「にぎわいの森」は開業後12月末までに延べ約35万人のお客様が来場しました。
- 名古屋方面からも多数のお客様に来ていただいております、東海環状道の大安IC開通との相乗効果を実感しています。

観光活性化 <行動変化>

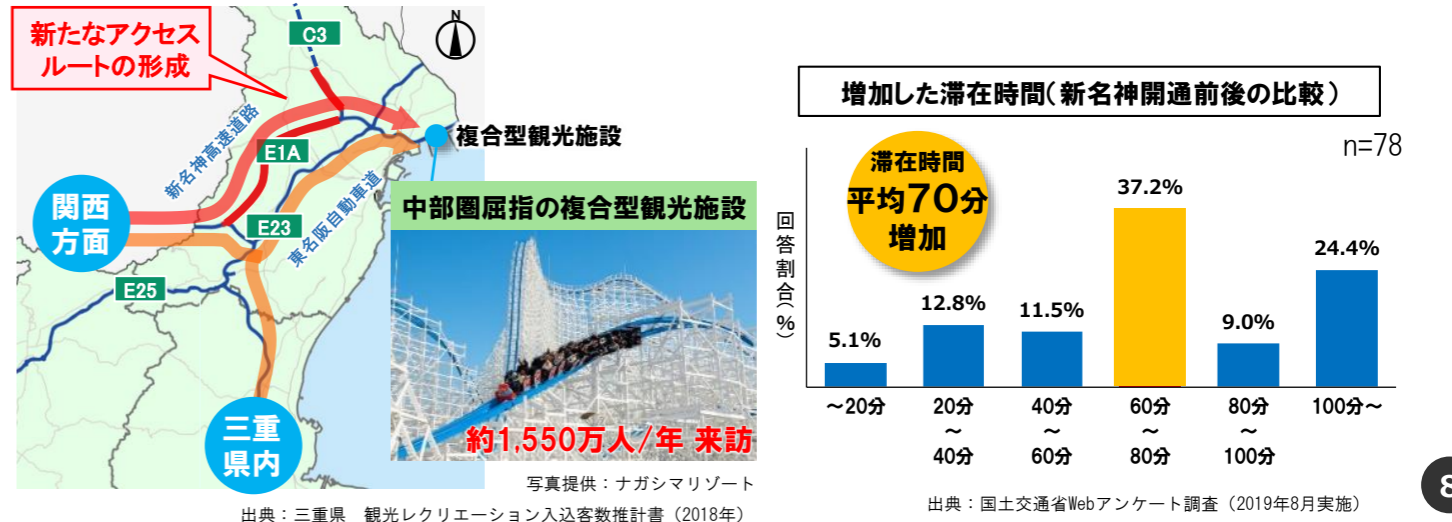
- 令和改元で例年以上に多かった伊勢神宮への参拝・初詣客の移動を支援。



観光客の声

- 伊勢神宮に長くいられるようになりました。（愛知県 42歳 男性）
 - 毎回ひどい渋滞を覚悟していたのが、開通後、いつも渋滞していた箇所がスムーズに走行できたので、今後三重県への観光は増えると思います。（岐阜県 55歳 男性）
- 出典：国土交通省Webアンケート調査（2019年8月実施）

- 中部圏で屈指の観光スポットである桑名市の複合型観光施設では、東名阪道の渋滞の大幅減少により来訪者の施設滞在時間が平均70分増加。
- 新名神の開通によって関西方面からの新たなアクセスルートが形成。



輸送効率化<高速バス>

- 高速バス路線の定刻運行が可能となったことで、ドライバー・車両の運行が効率化。今後、ドライバーの働き方改革も期待される。
- 増加する観光客の利用を見込み、熊野市の観光地付近に停留所を新たに2カ所設置。

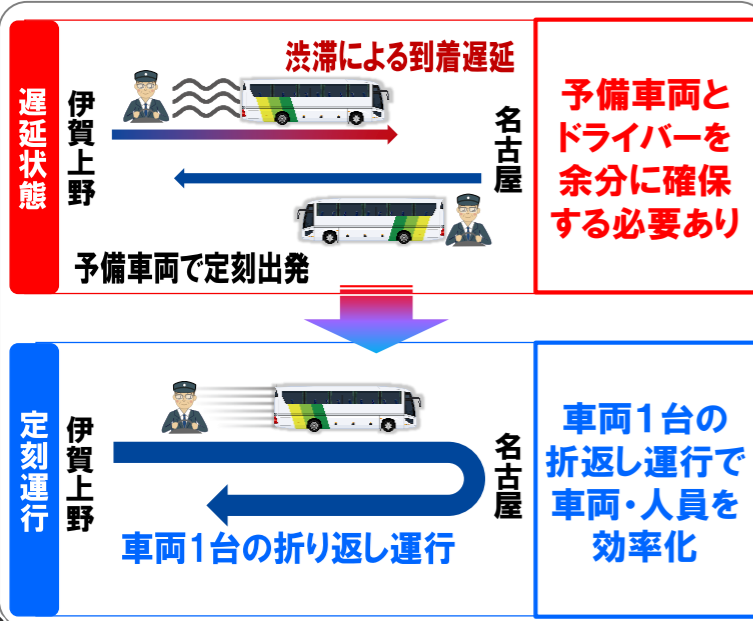
高速バス事業者の

声

- 遅延に備えて、予備車両とドライバーを余分に確保する必要がなくなり、効率的な運行ができています。
- 東名阪道の渋滞が解消され、名古屋と伊賀上野を結ぶ路線では、遅延が最大22分も短縮され、ほぼ定時運行になりました。
- かねてから多くの観光客が訪れる熊野市内の観光地付近に、お客さまの利便性向上のため、新たな停留所を2カ所設置しました。



予備車両&ドライバーの不要による効率化



熊野市内の観光地付近に停留所新設



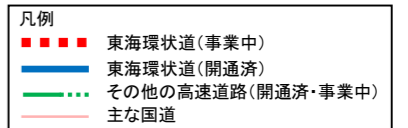
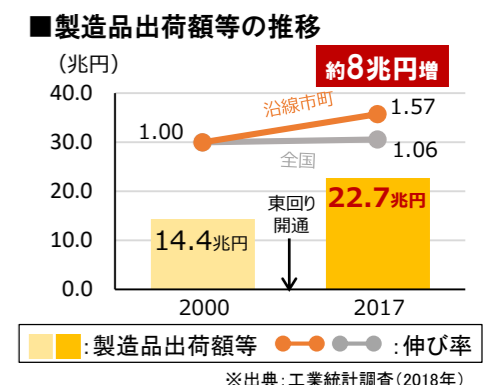
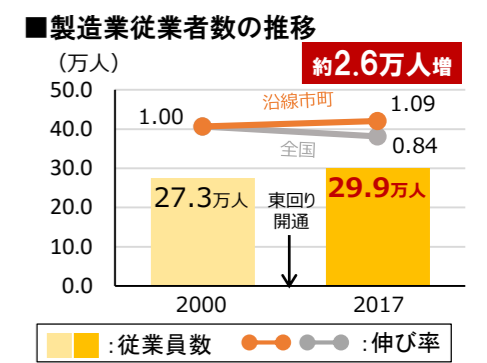
6車線化によるネットワーク機能の強化<新名神高速道路>

- 物流効率化による生産性向上等を支援するため、高速道路ネットワークの安定性・効率性などの機能強化に向け、新名神高速道路(亀山西JCT~大津JCT(仮))では6車線化事業が推進されています。



全線開通が支える中京圏の更なる発展<東海環状自動車道>

- 東海環状道の沿線地域では、全線着工した2000年以降に製造業従業者数が約2.6万人、製造品出荷額等が約8兆円増加するなど、産業の発展等に寄与しています。
- 今後は、2024年度に北勢IC(仮)~大安IC及び、山県IC~大野神戸IC、2026年度には全線開通が予定されており、中京圏の更なる発展を支援することが期待されています。





三重県知事
鈴木 英敬

新名神三重県区間全線開通、いなべ市初の高速道路となる東海環状大安IC～東員ICの開通により、本県の産業や観光等に様々な効果が現れていることをうれしく思います。平成の30年間をかけて整備が進められた新名神と整備が進む東海環状が、本県産業のさらなる発展や近年激甚化する災害への備えの礎となって、令和の時代の三重県を支え続けていくものと確信しています。東海環状が早期に全線開通し、さらなる効果をもたらすことを期待しています。



四日市市長
森 智広

四日市港の2019年の外貿コンテナ貨物取扱量は、2年連続で20万TEUを超えました。また、2018年の本市の製造品出荷額は三重県の約3割を占め、本市は三重県にとって重要な産業・物流の拠点地域です。新名神・東環の開通により、四日市港への物流需要も更に高まることを期待しています。四日市市は今後もこの道路環境を有効に活用し、東海エリアにおける西の中核都市として存在感を高めるとともに、様々な都市機能を集積させ、人で賑わい魅力に溢れるまちづくりを進めてまいります。



鈴鹿市長
末松 則子

新名神高速道路三重県区間全線開通により近畿圏と中部圏を結ぶ交通網が形成され大きな経済効果が期待されています。また、新名神と東名阪のダブルネットワークにより災害時の緊急輸送路としての安全性が確保されると同時に渋滞解消効果も顕著に表れています。更に鈴鹿PAスマートICの開設により新たな玄関口としての誘客拡大とモータースポーツを始め本市特有の地域資源を活用して鈴鹿の魅力を発信します。今後も周辺地域の効果的な土地利用の促進を含め本市のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組んでまいります。



亀山市長
櫻井 義之

亀山市は、高い交通拠点性を基盤に多様なものづくり産業が立地する内陸工業都市として発展してきました。新名神高速道路三重県区間の開通及び亀山西JCTのランプウェイ完成により、交通拠点性がより一層強化されたことで、市内工業団地に新たな企業が進出を決定されております。この好機を産業立地、雇用促進、観光交流などの活力に繋げるとともに、将来のリニア中央新幹線による道路・鉄道の総合的なネットワークの形成により、更なる地域ポテンシャルの向上に期待しています。



いなべ市長
日沖 靖

滋賀県と岐阜県に接し三重県の北部に位置するいなべ市は、四季折々の風景をみせる鈴鹿山脈と田園風景の広がるまちです。大安ICの開通は、いなべ市へのアクセスを容易にし、庁舎敷地にあるぎわいの森を訪れる多くの方も利用しており、新たなぎわいの創出に大きな影響をもたらしています。また、(仮)北勢ICは、本市に立地する自動車産業を始めとした産業界のみならず、観光や農業分野にとっても地域活性化の原動力となることから、1日も早い開通が望まれています。



東員町長
水谷 俊郎

東員町は、三重県北部に位置し稲作を中心とした田園風景が広がる町で、誰もが健康で生活できる「健康活躍のまち」、新しい農産物に挑戦し特産品を作る「稼げるまち」を目指しています。令和元年12月に、新名神高速道路の亀山西JCTが完成したことで交通の利便性がより一層向上しており、町内への新たな人の流入による地域の活性化や地元企業の発展につながるものと大きな期待をするのと同時に、東海環状自動車道が早期に開通しそれぞれの地域が発展することを期待します。



菰野町長
柴田 孝之

菰野町には古くからの歴史を有する湯の山温泉があり、自然豊かな暮らしやすい町です。新名神高速道路及び東海環状自動車道の開通以来、当町への来訪者も着実に増えていることを実感しています。東名阪自動車道の渋滞が緩和されたことにより、東京、大阪方面からの来訪者も増え、また、亀山西JCTもフルJCT化されたおかげで、伊勢方面への行き来が便利になり、より一層、観光面で寄与してくれると感じております。当町といえども、IC周辺のストック効果を十分に活用し、今後も地域の更なる発展を目指して参ります。

新名神・東環 開通効果 検討会議 設立趣旨

新名神高速道路（新四日市JCT～亀山西JCT）・東海環状自動車道（大安IC～東員IC）の開通による影響把握にあたり、関係機関が密接に連携し、開通効果検討および対外的な広報を行うことを目的に設置。

参加機関



国土交通省



中日本高速道路（株）



三重県



四日市市



鈴鹿市



亀山市



いなべ市



東員町



菰野町